



イタセンパラ 野生復帰の取り組み

国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所と共同で、淀川水系で野生絶滅に近い状態に陥っているイタセンパラの野生復帰に取り組んでいます。

経緯

- 1971年 当研究所の保護池で生息域外保全開始
- 2006年 淀川で確認途絶える
外来魚による食害や外来植物による生息環境悪化が原因
- 2006年 最大の生息地の**城北ワンド群**（大阪市旭区）で外来魚駆除の研究を開始
- 2009年 淀川の外来種の少ない水域に各500尾放流、場所は非公開
- 2011年 淀川の外来種の少ない水域に各500尾放流、場所は非公開
- 2011年 **淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク（イタセンネット）** 設立
城北ワンド群で住民参加型保全活動開始
- 2013年 春、2011年に放流した個体が自然繁殖、約1000尾の稚魚を確認
非公開水域、絶滅状態から定着へ
- 2013年 10月、**城北ワンド群**の外来魚の軽減に成功
公開で地元小中学生が500尾のイタセンパラ親魚を公開放流
- 2014年 5月、**城北ワンド群**で稚魚750尾確認
2013年の放流以降、毎年稚魚を確認
- 2015年 **庭窪ワンド**で市民活動開始
- 2015年 7月、**イタセンネット**日本水大賞の環境大臣賞受賞
- 2016年 **庭窪ワンド**でイタセンネット保全活動開始
- 2016年 10月、**イタセンネット**、国連生物多様性の10年日本委員会による
連携事業に認定
- 2018年 5月、**城北ワンド群**で放流以降最多となる稚魚20,767尾を確認



イタセンパラ



淀川 城北ワンド群（大阪市旭区）



イタセンパラ放流式